



11月の主な予定

2日	木	たんぼぼ親子ふれあい遠足
6日	月	エルフの会読み聞かせ (1年)
7日	火	市内教職員研修のため給食後放課
10日	金	クラブ活動 文化祭準備
11日	土	第24回南風校区文化祭 ▼9時 開会 体育館でステージ発表 ▼10時 バザー開始 ▼13時 PTA企画 ▼15時30分 閉会
13日	月	文化祭の振替休日
14日	火	イングリッシュ・ウィーク
15日	水	ピンクシャツ・デー
17日	金	親子ふれあいデー (1年生) 委員会活動
22日	水	親子ふれあいデー (2年生)
24日	金	クラブ活動 みなかせカフェ (5年生)
28日	火	親子ふれあいデー (6年生) エルフの会読み聞かせ (2年生)

たべもの

なかえとしお

もこもこ	さといも	ほこほこ	さつまいも
はりはり	だいこん	ぱりぱり	たくあん
ぼりぼり	■	かりかり	らっきょう
つるつる	■	くるんくるん	こんにやく
ぷよぷよ	とうふ	ぬるり	わかめ
しこしこ	たこ	しゃきしゃき	■
こりこり	こうめ	ぷりんぷりんの	とまと
がすがす	なし	ひりひり	しょうが
ぴんぴんした	たい	あつあつの	■
ほかほかの	ごはん		

- 中江俊夫さんの詩「たべもの」。  
四角の中にどんなたべものが入りそうですか。
- 担任をしていたころ、参観日にこの詩をとりあげて授業をしたことがあります。「ぼりぼりはせんべいでしょ？」  
「いや、きゅうりだよ」「きゅうりはしやりしやり  
でしょ？」「でもながれからいったら絶対野菜だよ。  
せんべいはないでしょう」…  
親子でそんな言葉がかわされていたことを思い出します。
- 「もこもこ」「かりかり」…これらの言葉は「擬態語」「擬声語」と呼ばれます。食べることとあわせて、子どもたちの言葉に対する感覚を  
とぎすまし、語彙を広げることも大事ですね。
- 食欲の秋。  
子どもたちは今日も笑顔で給食をいただきながら体の健康を整えています。



脳の栄養

- 「不読率」という言葉があります。  
ここで言う「不読」というのは一か月に一冊も本を読まないという意味です。
- 不読について令和2年度の全国調査結果をみると、  
▶高校生51.2% ▶中学生15.2%  
が不読ということ。高い、ですね。  
小学生の不読率は、7.6%でした。
- 読まない理由は何か。小学生が挙げた主な理由は次の通りです。  
▲テレビやYouTube等の動画を観るのに時間を使うから。(17%)  
▲ゲームをするのに時間を使うから。(15%)  
▲マンガや雑誌の方が面白いから。(14%)  
▲読みたい本がないから。(10%)
- では、子どもは読書がきらいなのか、というと決してそうではない。図書室で、教室で、瞳を輝かせながら静かに本に向かう子どもたちをみていてそう感じます。読みたい本がそこにあって読む時間と場所があれば多くの子どもたちは本を楽しむ、親しむものだと思います。
- 読書の秋。  
読書は脳の栄養とも言われます。文字を追いながら想像や考えをめぐらせることも大事にしたいですね。



志 ~こころざし~

- 志。  
南風小学校が大事にしている言葉の一つです。この言葉は幕末の志士、吉田松陰の「志を立ててもって万事の源となす」からとっています。志について松陰は、「志とは国家国民のことを憂いて一点の私心もないもの」と説いています。
- 「志」と似た言葉に「目標」や「夢」があります。それらの言葉と「志」、何が違うのか。私たちはこう考えています。例えば「医者になりたい」という人になぜ医者になりたいのと尋ねたときに、「素敵なお家に住んでかっこいい車に乗りたいから」と応えたならばそれはその人の「夢」。「病気で苦しんでいる人を一人でも救いたいから」と応えたならばそれがその人の「志」。
- 私たちが大切にしている「志」とは、その人の思いや願い、行動に「だれかのため」「何かのため」という心が働いていること。「一点の私心もない」とまでは求めません。大切な自分のため、という心も大事です。が、子どもたちの心に「だれかのため」「何かのため」という灯を点けたいのです。「志ノート」「今週、今月の志」…。子どもたちの思いや願いが真に「志」に向かうよう、関わっていきます。



あいさつでつながる

- あいさつ運動。  
自分からあいさつして、自分も、そして相手もさわやかになるために。気持ちよくつながるために。あすなる委員会の子もたちが「自分たちで」「自分たちから」考え、動いてすすめてくれました。
- この取組には、昨年度から前原中と前原西中の生徒の皆さんにも参加いただいています。10月23日から27日まで。来ていただいたのは南風の卒業生。子どもたちの先輩です。登校前に時間をつくっていただきました。
- このあいさつ運動が先輩と後輩、そして久しぶりに再会した旧友とつながる場ともなりました。

